三月拂一日夕刊

常磐毎日新聞

日刊

定價一部金貳錢一ケ月金五拾錢 郵送五錢
廣告料五號一ヶ詰一行金五拾錢
日曜祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人 川崎文治
福島縣石城郡平町長橋町三五
發行所 常磐毎日新聞社 電話六三〇番
印刷所 常磐毎日印刷株式會社

因果は道伴れ

眞繼雲山

古へ支那の孫叔敖、未だ少年でありしとき、一日外出してたま〳〵兩頭の蛇を見、歸來食せず母故を問ふ少年竝いて曰く『私は今日兩頭の蛇を見て來ました。數日中に私は死なねばなりませぬ』

母、更に問ふ『その蛇いま何處にありや』叔敖答ふ『我れ聞く兩頭の蛇を見るものは死すと、仍りて又、他人のこれを見て死に到らんことを恐れ、殺して土中に埋めて來ました』と母親曰く『憂ふること勿れ汝死せじ、陰德あるものは陽報あり』と。

後、果たして彼れは令伊の要職に上り、未だ治めざるに國人これを信奉したと云はれる。これは陰德を積んだといふ原因に對し陽報といふ結果が惠まれたのではない。陰德を積む心がけの孫氏にはへびは見ずとも埋めずとも、その心がけに陽報は具はつてゐるのだ。反對に、自分が兩頭のへびを見て死なねばならぬからには、そのへびを晒し物にして他人をも道伴れせんといふ如き孫氏であつたならば、へびは見ずとも恐らくは夭折したであらう。原因があつての後に結果が生れるのではない、原因には結果が伴ふてゐるのである。

この頃、或る知人の宅で小僧時代から我が子同然に育て上げて來た番頭が、どうも風邪氣で午後には熱が出てブラ〳〵するといふので、イヤがる當人を町醫に見せたところ果然、肺結核當人は一ケ月も前から、幾度も〳〵喀血してゐるのを秘してゐたのであつたことが分つた。それとも知らず今が今まで同じ鍋の魚を共々に突ついて來たその家の主婦は、氣も顚倒して嘔吐したまゝドッと床に就いてしまつた。

喀血したなら肺病といふことは大体・常識でも分る筈。他人に傳染しては相濟まぬと即事に事情を打ち明け前後處置を講ずべきであつた。他人が知らぬからとて無形の殺人劍、結核菌を蒔き散らして德義上の殺人罪を犯してゐるにも似たる番頭君には、初めよりして良き果の伴ふべき謂はれは無かつた。

或る家の妻君は三錢五錢の釣錢を、あつちこつちに置き散らす癖がある。お蔭でその亭主まで年中貧乏でピイ〳〵してゐる。金を粗末にするは勤勞の尊さを知らぬものである。勤勞を卑しむものが何として豊かであり得やう。蒔き散す金が失はれて貧乏するといふのではない、さうした『だらしなさ』には貧乏神が道伴れに歩いてゐるのである。

因果は一如である。

又或る家の妻君は。惡夢を見ると、翌朝必ずそれを他人に告げて他をも不快に陷らせる癖がある。吉夢を秘すれば福樂入り、惡夢を口外すれば、災危散るとの迷信によるのであるが、私をして言はしむれば、恐らくそれは正反對であらう。他人は樂しさを施さず他人に不快さを投げつけておいて福の惠まれる筈は無いからである。

かつて北條政子の妹。惡夢を見て買つてくれよと言ひしに姉政子、即時に買ふて進ぜんとて、その惡夢を語り受けしに、圖らずそれが源頼朝との戀の緣をつくり遂には征夷大將軍の敎所たるに至つたといふ。自分の不快さを他に投げつけるものに福樂は來らじ他の不さを自ら購ふて忍ぶものにこそ福樂は訪れるのである況んや結核菌をや、殊に況んや兩頭のへびをや。

因ありて果、來ると思ふこと勿れ。純金は尊き故に光あり、光ある故に尊いのである。櫻花は爛漫たる故に美はしいのであり、美はしき故に爛漫たるのである因は一如にして道伴れであり、形影はつねに相伴ふのである。

天に冥助あることを知れ天に冥罰あることを知れ。

外科
X光線科
性病科
外科
入院隨意
平町田町
安齊外科醫院
電話四七五番

ヒナ人形
今年は驚く程安價になりました
東京一流の人形師玉秀の特作品を陳列いたしました
ぜひ御覽下さい……
お待ちして居ります
二丁目 福 フクタヤ

吉田眼科病院
平紺屋町・電話六八八番

專門
産科
婦人科
花柳病科
◎入院應需
井坂醫院
平町田町 電話五五九番

東京十軒店久月の
雛人形陳列
お子樣方が一年中で一番樂しみな桃のお節句が近づきました江戸の。檜舞臺日本橋の十軒店で永年御愛顧を受けて居ります弊店は今度初めて御當地へ參りました。是非一度御覽の榮を得たく御待申して居ります。今後永く御引立を頂き度くと存じますから値段と品質とで他店のまねの出來ぬ勉强を致します。
平町田町（停車場前通り）
平マーケット内
東京日本橋十軒店
久月本店直營
電話平局六〇三番

小兒ノかん・むしニあかひき丸
堀藥局 平町二丁目 電三二六

柔道衣
劍道具
新學期特賣！
磐中 平商 御入學の諸兄を御喜び申上ます
右調度は品質確實にして斯界に定評ある優良品である
東京磐崎製柔道衣
京都正春製劍道具
右製品を責任を以て御奬めします
◇特價◇
柔道衣
甲品平刺し 三ッ揃一人前
中人用 ¥2.70
大人用 ¥3.40
劍道具
竹胴付 極上品 一人前組 ¥11.00 台引
竹刀附屬品付 1本¥0.80 引
特約販賣店
配達敏速
香味本位の本場銀茶を召上りませ……
電三九六番
平町三丁目
大勝園

一般から待望された明日の開館式

第一會場本館前にて擧行

明朗な博覽會氣分を横溢

一般から非常に待望された昭和産業博覽會は愈よ明日鳴り響く

煙花と 共に開場の幕が切つて落とされる先づ午前十時より展氣樓の如く浮び上る第一會場本館前の野外演藝場に於て擧行される開館式は副會長井上縣議の開會の辭に始まり一同起立して

君ケ代 を合唱主催産業奬勵會長野崎縣議の會務報告あつて會長伏見彦衛氏式辭を朗讀し續いて總裁村井知事の告辭あり各大臣を始め

代議士、縣會議員、官公衙長、縣内市町村長、郡内町村長、全國商工會議所代表、町會議員、山崎平商工會長、青沼協賛會長、出品人

等各總代の祝辭あり副會長萩原縣議の閉會の辭に依つて開式後直ちに祝宴に移り舞臺に於ては平藝妓の磐城の四季、屋敷娘、平小唄等の手踊り

賑々し き中に酒間に配するに美妓を以つてし明朗な博覽會氣分を横溢せしむべく尚ほ仙臺放送局臨時出張所にては會場の模樣を中繼し放送塔の擴聲機に依り平町全町に向つて此の狀況を傳ふる由

伏見會長の式辭

本日平町産業奬勵會主催昭和産業博覽會開會式を擧行するに當り　閣下を初め多數貴賓の貴臨を辱ふしたるは本會の最も光榮とするところなり

抑我平町は今春を以て町治多年の懸案たりし上水道擴張事業の竣工を見るに由り之を永く記念すると共に地方産業の開發に資し國産愛用の機運を促進し以て我經濟難局打開に貢献するは現下の國情に鑑み最も緊要なるを信じ茲に昭和産業博覽會の開催を企圖するに至れるなり

顧ふに本會の開設たる本町に於ける斯種事業の嚆矢にして果して一般の期待に副ひ得るや本町の秘に危惧せしところ然るに幸にして朝野各方面の熱誠なる同情と援助に依り出品の範圍は本邦内地は固より遠く臺灣朝鮮樺太滿洲の各地に及ひ既定の規模に狹隘を告け遂に其の擴張を要するの盛況を呈するに至りしと一面本會協賛會の終始甚大なる後援と相俟けて一段の光彩を添へ得たるは本會の衷心感謝に堪へさるところなり

冀くは本會の開催により幸にして地方産業の開發に資し國民經濟振展の一助とならば以て本會の使命を完ふするに庶幾からんか茲に一言を陳へて式辭とす

昭和七年四月一日

昭和産業博覽會長平町長　伏見彦衛

磐中入學試驗合格者發表

入學式に無斷欠席すると入學許可取消さる

縣立磐城中學校入學試驗合格者は本日左記の如く考査番號順に依つて發表されたが入學式は四月四日午後一時からにて當日無斷出校せざるものは入學許可を取消さるべく又入學を許可されたものは四月五日までに在學證書を提出されたしと、

（考査番號順）

早川順雄　小林美直　根本榮　大坪章　前田鎌太郎　樋口賢　吉田都榮　藁谷弘　遠藤赳夫　志賀忠之　矢吹守　鈴木佐之助　鈴木義榮　草野堅司　清水弘一　武藤義明　河田稔　神永立雄　松本光善　阿部慶四郎　松本久　酒井榮壽　有馬德衛　鷺皓　小宅藤麻　高野忠好　小林晃　志賀剛　矢吹博　小湊勇次　高萩達雄　植松力雄　志賀健　木村復衛　青田一郎　鯨岡孝　加茂久雄　前田美雄　松本吉正　大和田一雄　阿部景良　石井貞信　吉野吉雄　藁谷達　草苅健　堀竹雄　高田憲一　本馬正雄　薄井重光　小田榮　石井泰之　根本正男　先崎正　渡邊泰男　武田忠夫　小野泰也　賀澤一郎　小野義夫　高野邦一　平山靜　木田昌平　坂本吉正　安藤仁　齊藤利夫　鈴木洋一郎　片寄正彦　大平孝　强口五郎　鈴木三郎　草野芳房　砂田誠　鈴木義正　佐藤良一　吉田清二　西野敏夫　梅田進一　鈴木正一　鈴木六郎　關塲毅　阿部榮五　湊徹郎　加藤林　赤津明　田村農夫雄　阿部貞太郎　大和田勇　青木滿男　篠原英任　紺野繁雄　鈴木四郎　吉野八十榮　鈴木壽　門馬杏一　安齋一郎　石田公俊　宇津野勘壽　磯上光男　松本廸男　篠原清剛　山家重三　大野章雄　戸來盛　西山茂　橋本善言　石井敏光　山名光男　鈴木吉平　高階偲　長谷川敏　船田義澄　佐川一貞　榊原貞男　明智一郎　鈴木政文　箱根志磨男　鈴木洋三　新妻孝次　六原馨　金子正三　星野義寛　橘八郎　鈴木清忠　鈴木輝男　菊地民郎　山崎導雄　安藤源資　高木俊雄　高木金重　平澤正成　作山友人　里見可中　赤塚兼松　大友通雄　秋山清　秋山金彌　長瀨高行　平山壽一　三正巳　三島浩　酒井健　渡邊正喜　鈴木武雄　木田博　鷺七郎　北野正明　鈴木源一　箱崎孝一　戸田貞雄　佐々木士郎　額賀弘　比佐九　石川博　佐藤松雄　小松明生　木田茂雄　赤津益太郎　猪狩武雄　吉田豊　矢内朝彦　根本榮二郎　弓野治郎　鈴木一　米川清　草野一郎　山下剛　飯高洋保　片寄忠浩　渡邊行郎　樫村洋　木田唯三郎　長谷川隆　佐藤義雄　佐藤進　松田浩一　加澤慶太郎　成清磐城　山田晋　牧田清　鈴木佐造　荻野浩　新井美照　久松滿穂　石崎久雄　大野昌二　塚本三郎　山下卓也　鳴原廣　新妻義雄　山口重勇　木村義貞　西山勇造　佐藤信雄　渡邊唯一郎　小林安友　青天目武夫　渡邊藤二　柴田旭雄　矢野仁一　渡邊清匡　豊澤峯雄　木村健治　森靜政　小野春男　助川浩　中島端　綠川六八　和田壽夫　渡邊正敬　石橋正己　水野三郎　赤津一衛　金成金三郎　根本繁之　飯島司康　鈴木實　鈴木久秋元順吉　比佐幾造　松本一夫　佐野泰治　齊藤久　山浦雪一　鈴木多一安孫子義秀　佐藤久壽　渡邊定五　渡部忠雄　佐々木巖　杉山朝臣　齊藤四郎　篠原貢　志賀長平志村憲助　小松治夫　松崎由郎　永山貞雄　岡田軍治　遠藤茂　高木造二瓶英男　園部英明　駒澤秀一　松崎元弘　藤田晋一　渡邊友好　山下年一　須藤吉弘　鯨岡作壽若松壽雄（以上二百五十名）

風邪流行

御用心あれ

市原醫師談

今年の冬は例年にくらべてずつと温度が高くそのため風邪ひきも他の傳染病も一般に非常に少かつたのです、そして三月に入りポカ〳〵とした陽にいよ〳〵ほんとうの春が來たと思つてゐると急に温度が下るびよし〳〵とそこ冷えのする雨がふる、そして又あたゝかくなつて一週間もつゞいたかと思ふと又さむい風が吹く

◇

みぞれや雪さへも降りだす今日の氣候にぐん〳〵と風邪ひきがまして來ました、まだ〳〵氣候は定まらないから用心をおこたらないやうに願ひます今度の風はさうたちが悪いといふのでもないが、せきがひどく、いつまでもぬけないのです

◇

なほつたかと思ふと又わるくなり又なほつたゝなりといふふうで、それをいつまでもつゞけてゐるうちに他の病氣も出たりしますから、十分氣をつけることです、そしてなほ天氣のよい日には日光に出來るだけよくあたり郊外へもたび〳〵でて、よい空氣をすひながら散歩し、陽にあたつて、からだの抵抗力をつけるやうにしたいものです

（市原醫院長市原卯太郎氏談）

難波醫院
平町　新川町
【釜屋新宅向】
電話五〇二番

三勇士の鐵カブト

子供等は歡迎

危險なのはカン潰し

映畫に唱歌繪畫に世を擧げて爆彈三勇士時代でわが平町兒童の玩具も三勇士と記した鐵カブトや假面はじめ色々なものが現れ

事變の刺戟を受けて

ゐる兒童に歡迎され市内いたる處に戰爭ゴッコが流行し可愛三勇士が紙のカブトで駈まわつて居るが爆彈型で『カンつぶし』をはさんで投げると爆發する玩具も流行してゐる、これは鐵製の丸を投げる上に爆音が出るので危險が伴ひ現に

通行中の老人に命中

して危く怪我する所だつた事實さへあり目下父兄等は學校當局にこれが禁止を願ひ出ることを申し合してゐる

豐間村の大敷網開始

漁夫百數十名

新潟から來る

石城郡豐間村大敷網の漁夫百數十名は明一日新潟縣から出張し來る筈で五月上旬には漁業を開始する計劃となつて居り前景氣の活況を呈して居る

夏井川堤防改修陳情

石城郡夏井川の河口は降雨毎に土砂で埋まり附近耕田の被害尠からず阿部夏井村長外代表數名は二十九日平土木監督所を通じ縣に同川下大越地内の土砂浚渫及び平菅沼線愛谷江筋の堤防改修方を陳情した

電話簿へ廣告掲載　四月一日より二十日迄平郵便局に於て電話番號簿へ廣告掲載の受付を爲す事になつたが電話は大衆日常生活上缺く可からざる施設であるだけに電話番號簿に廣告を掲載すると云ふ事は相當大きな効果を齊すものと期待され爲之昨年は各方面に於て豫期以上の成績を揚げた尚申込に關して詳細のことは郵便局窓口又は七〇〇番に照會されたいと

女給を世話すると借用して投げやり

行き合つた路上で取ッ組の大喧嘩

平町宇長橋町佐藤淺治（四一）は二三年前石城郡湯本町裏町カフエースター主人秋本廣治（三七）より女給を世話すると二十圓借用し其儘投げやりとして置いた處偶々昨日午后二時頃綴驛前に於て兩人出合取ッ組合ひの喧嘩となり佐藤は秋本より全治迄一週間を要する傷害を與へられ平署に傷害の告訴をなした

社員募集

（編輯部見習數名）

一、中等學校程度以上の學力

一、身体强健にして廿歲前後

右至急募集す、希望者履歷書持參來談あれ

常磐毎日新聞社

佛教講演支部　石城郡小川村遍照寺佛教講話會は同村上平安養寺内に支部を設けたと

消防幹部協議　石城郡神谷村消防組にては廿八日幹部會を開き春季檢閲に關する協議を遂げた

共進會

農會主催

石城郡農會では本月末日から六月下旬迄水田二毛作、畑作立毛、推肥等共進會を開催する

放牧の爲め公地を開放

石城蓄産から農林省へ請願

石城郡の畜産組合では年々放牧地を狹められ馬匹の生産を制限する外無く産馬畜産上損失少くないので三坂永戸、澤渡、上遠野、各村に存在する公有地を無償貸與して貰ひたいと卅日縣を以て農林省當局に請願する

明日のラヂオ

仙台放送局

今晩の部

▼後六、〇〇（子供の時間）童話劇「船を救つた」鐘仙台兒童學藝協會ハイドンの夕　二百年記念祭
▼後七、四五　室内樂　ハイドンクワルテット
▼後八、一五　合唱（日本橋三越より中繼）東京シンフォニックコーラス
▼後八、三五　ピアノと管絃樂（ピアノ獨奏）東伏見邦英伯
▼後九、〇〇　管絃樂　日本放送交響樂團
▼後九、四〇　全國ニュース　氣象通報　番組豫告

天氣豫報

今晩は北西の風晴明日は北東の風晴夕刻より曇り

明日の部

▼後〇、〇五　映畫物語「鳩笛を吹く女」桂木詩城
▼後一、一〇　運動競技
▼後六、〇〇　子供の時間　お話「入學の門出を前にするお子さん方の爲に」長瀨貞一
◇花七夜◇（第一夜）
▼後八、〇〇　「落語」三遊亭圓遊
▼後八、三〇　「都をどり」京都祇園新地歌舞練場より中繼

鎌田トンネル轢死體横はる

卅才前後の店員風身元が不明

常磐線平草野驛間神谷村鎌田地内トンネル内に男の轢死体あるを今朝六時半頃通行中の線路工夫が發見届出ことになつたにより平署から佐々木部長出張檢視したが年令三十才前後店員風の男にて遺留品なく身元不明である

登樓客と一所に酌婦消え失す

平署へ捜査願

平町南町飲食店浪花亭の酌婦茨城縣生れ山本とき藝名てる（二二）は昨夜八時頃無斷逃走したが同時刻頃某局員御代某（二一）が登樓客し同人が歸ると間もなく行衛を晦したので多分同人に誘拐されたものらしく平署へ訴へ出た

ソバ組合役員　石城郡小名濱町ソバ屋組合にては廿九日役員を改選し組合長佐藤政治氏以下夫々新設を決定した

石城駒セリ市　石城郡産馬組合では七年度第一回二歲駒糶を左の日割で行ふ

△三十日から五日間澤渡村中寺△四月五日から四日間上遠野村△九日から三日間田人村黑田

小名農會總會　石城郡小名濱町農會にては卅日午前十時から役場内にて總會を開き豫算及び決算の協議を爲す筈

平職業紹介所報告

求人の部

△徒弟　十五六才位　高卒　仕着小遣（平町紺屋町某）
△雜夫　二十才以上四十才迄　教育程度不問　給料面談（平安會）

求職の部

△土工夫　三十八才　無學　給料面談（平正月町某）
△土工夫　三十六才　高卒　給料面談（平禰宜町某）
△土工夫　三十七才　中三　修　給料面談
△商店雜役　二十才　高卒　給料面談（好間村某）

平町人事

回出生

△田町一三三浦桂次郎氏二女八重子
△研町五只野菊治氏二女一子
△長橋町五〇谷津田春治氏二女和子
△堂ノ前二〇鈴木寅之丞氏長女美枝

榮光劍士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

〔第十五席〕　神影流の達人秋山要介　(15)

要介に賴んで

根岸御行の松の傍に劍術の道場を開いた秋山要介、門人が附かぬことゝて誠に閑散、下男治助を相手に酒ばかり飲んでゐる

治『先生貴下は劍術にかけてはもう名人だと中野樣が然う云つてゐました、それ程の先生が世に知られねえとはどういふ譯か、わしは此處へ來てもう半年にもなる、未だに一人のお弟子が附ぬとはどうした事か』

要『どうも據ろない、商人とは異り引札を配つて知らせる事も出來まい、其の内には俺の名の知れる時もあらう、先づ〳〵天命に任せて置け』

治『天命などといふ奴は達引の無え奴だ、何と然し先生、場所も宜くねえ、こんな所へ道場を出したとて人の目に著かねえだ、知つてゐる者は豆腐屋ばかりだ、豆腐屋に知れた處で稽古には來ねえだらう』

○『御免なさいましお賴み申します』

治『しめた、先生弟子入りがございますぜ』

と云ひながら治助が玄關へ出てきて見ると其處へ店

るは年齡四十三四、髮は水髮に取上げて本薩摩の單衣に胡麻柄唐棧の羽織を被た粹な男』

治『何處からございましたお前さんは劍術を習ひに來さしつたか』

した』

要『勝五郎、そのやうな者は知らんナ、まア此方へ通せ、一會つて見るであらう』

間もなく案内に從ひ、それへ來たは勝五郎

勝『秋山先生でございますか』

要『要介は俺、其許はわ組の鳶の者とかどういう用事があつて見えたナ、俺の門に入つて劍術を學ぶか』

勝『イエそんな事で來ました譯ではございません、小哥の知つてゐる原傳右衛門と申します川越樣の御家來から先生の事を聞きまして

○『お弟子入りに參つた譯ではございません、小哥はわ組の鳶の者で勝五郎と申します、先生にお目にかゝつてお話し申したい事があつて出ました』

治『ア、然うかね少し待つせえ……先生わ組の鳶の者で勝五郎と云ふ者が參りま

出ましてございます』

要『原と申す者は存じて居る、それがどうした』

勝『ヘエ先生にお尋ね申す事がございます』

要『どのやうな事か聞かぬ内は返答もならぬが武藝に關した事ならば答へもいたすであらう』

勝『恁ういふ譯でございます、この先に井口の別莊がございますが』

要『ウン藥種問屋ださうだナ、その井口と申すはあれに美しい女が居るナ』

勝『其事で出ましてございます』

要『解つた、俺の妻にして來れとの賴みか、折角であるが俺は女は嫌ひだ』

勝『イエ、此方へ嫁に寄越すといふ譯ではございません』

要『それではどういふことだ』

勝『どうぞお聞きなすつて下さいまし、此の世の中には不思議な事もあるものでねえ先生、こんな奇妙な事がございませうか』

要『フーン吟中とか申す藝人が、その娘の部屋に折々忍んで參ると、ハテナシテ吟中は其時宅に居つたと』

勝『左樣でございます、一ッの身体を二ッにする事は出來ますまいが、寮に參る吟中は何者でございませう、先生に見届けて頂きたいものでございます』

要『宜し〳〵、俺が參つてその正體を確と見定めてくれる』

勝『こんな事が今までにありましたか』

要『それは有る、武田信玄の家來多田淡路守が信州虛空藏山の城にて古狐を退治した事がある、小姓が奥女中の許へ毎夜忍ぶところがその小姓は毎時詰所に居つて奥殿へ參つた事は無い、然すれば妖怪の所爲に相違ないと多田淡路守がその小姓が女中の部屋に居るを見定め一刀の下に斬つてすてたが、それは只今も申す通り狐であつた』

勝『ヘエ、それではお孃さんの許へ來るあの吟中も狐でございませうかね』

要『それ程は判らぬがまア何にしても俺が見届けて遣る、萬物の長たる人が妖怪の爲に愚弄されるは大なる恥辱だナ』

勝『それでは先生今夜井口の寮までお出下さいまし』

要『參るであらう』

かつ『後刻、お迎ひに出ます』

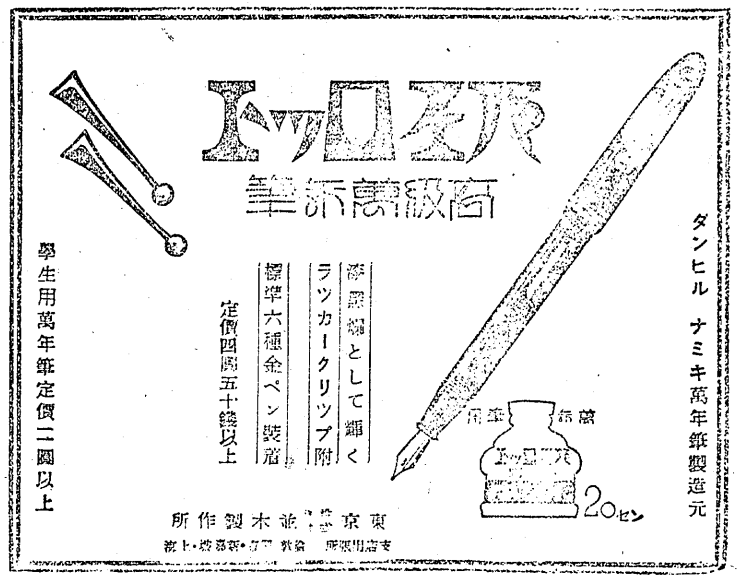
と堅く約して戻つた、日の暮にかつ五郎が出て來ましたからこれに伴れられて井口の寮に來た秋山要介。

市原醫院
平町田町
電話一一四番

◎期日　來る二十四日　午前九時
◎場所　昭和産業博覽會第一會場

第三回
郡下模型飛行機競技大會

◇參加資格何人を問はず參加券不用
◇尙其詳細は主催店へ御問合せを願ふ

主催　平町　いづみや玩具店
後援　常磐毎日新聞社
昭和産業博覽會
ダイヤモンド模型飛行機東京研究會

平町公園前
特約店　角忠　佐々木商店
電話二三三番
◇昭和産業博覽會本館正面ニ出品
◇御試用ハ弊店ニテ……種類豊富
◇學生向　二、〇〇ヨリ　紳士向　一七、〇〇